

障障発 0219 第 1 号
障精発 0219 第 1 号
令和 6 年 2 月 19 日

各都道府県 障害保健福祉主管部（局）長 殿

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害保健福祉課長
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課長
(公 印 省 略)

高次脳機能障害支援養成研修の実施について

高次脳機能障害を有する者が暮らしやすい社会を実現するため、障害福祉サービス等の利用を希望する者に対して、同障害の特性に応じた支援を実施できる支援者の養成が求められている。

このため、高次脳機能障害の特性に対応できる、専門性を持つ人材を確保する観点から、新たに別添のとおり、「高次脳機能障害支援養成研修実施要綱」を定めたので、本事業の円滑な実施について特段の配慮をお願いします。

高次脳機能障害支援養成研修実施要綱

1 目的

高次脳機能障害についての知識を得ることやその障害特性を理解することで、高次脳機能障害の障害特性に応じた支援を実施できる、障害福祉サービス事業所等に従事する支援者を養成することを目的とする。

2 実施主体

実施主体は、都道府県とする。なお、指定都市又は中核市（特別区を含む）で適切に実施できる場合には、事業の全部又は一部を委託することができる。

また、事業の全部又は一部を適切に実施できると認められる団体等に委託することができる。

3 対象者

- ① 障害福祉サービス事業所、相談支援事業所等において高次脳機能障害者の支援に従事する従業者
- ② その他、医療機関や行政機関の職員等、本研修の実施主体が認める者

4 研修内容

標準的なカリキュラムは、別紙のとおりであり、この内容以上のものとする。

なお、必要に応じて時間数を延長することや必要な科目を追加しても差し支えないものとする。

5 研修テキスト

本研修テキストについては、標準的なカリキュラムに沿った内容のテキストとする。

なお、令和2年度から4年度まで実施した厚生労働科学研究「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究」において、基礎研修及び実践研修のテキスト等の研修パッケージを作成しており、研修パッケージの貸出方法について、高次脳機能障害情報・支援センター（国立障害者リハビリテーションセンター）のホームページで公開されているので参照いただきたい。

6 修了証書の交付等

実施主体の長は、研修修了者に対して氏名、生年月日、修了した研修の課程、修了年

月日を記載した修了証書を交付するとともに、研修修了者の名簿を作成し管理すること。

7 事業実施上の留意点

- ・ 実践研修の受講者は、基礎研修の修了者とする。
- ・ 国は、本研修の実施に要する経費について、「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業の実施について」（平成19年5月25日障発0525001号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知）の別紙「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業実施要綱」第3の3に規定する研修事業として、別に定める交付要綱に基づき、予算の範囲内で補助するものとする。

高次脳機能障害支援養成研修カリキュラム

＜基礎研修＞	<p>◆対象: 全ての障害福祉サービスの新人・若手職員等</p> <p>◆研修のねらい:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉サービスの対象となる高次脳機能障害者について知る。 ・ 高次脳機能障害者の障害特性を理解し、日常的な支援での対応方法を習得する。
--------	--

	時間	科目	内容
I 講義	360		
高次脳機能障害支援者基礎研修とは	40	基礎研修の趣旨説明	本研修の対象となる障害・研修の構成
高次脳機能障害とは		障害の定義	高次脳機能障害の定義・Q&A・各論の紹介
高次脳機能障害の診断・評価	40	障害特性の理解	典型画像と経過・症状の現れ方
病院で行うリハビリテーション	40		問診・神経心理学的評価 【日常生活で気づくこと・留意すること】
			医学的リハビリテーション 病院から地域へ 【診断書のポイント・地域支援体制】
失語症とコミュニケーション支援	40	失語症とコミュニケーション支援	失語症と具体的な対応の要点
制度利用	40	制度利用	障害者手帳と総合支援法サービスを中心に
相談支援	40	地域におけるリハビリテーション	情報収集とアセスメント
生活訓練	40		自立訓練(生活訓練)における支援の取組
復職・就労移行支援	40		障害福祉施設及び障害者雇用施策における取組
生活と支援の実際	40		就労継続支援 B 型事業所の例から
II 演習	360		
障害特性の理解; 診断・評価体験	90	診断・評価体験	「順唱」「線分二等分」や「描画」等の体験(注意や記憶の働き等の理解) MMSE/WAIS/BIT/BADS など、基本対応
障害特性に応じた支援	90	退院時の実際 情報収集とアセスメント	課題提示
			グループ検討・発表
			解説・質疑
生活訓練の実際	90	生活訓練の実際	課題提示
			グループ検討・発表
			解説・質疑
復職・就労移行支援	90	復職・就労移行支援	課題提示
			グループ検討・発表
			解説・質疑

高次脳機能障害支援養成研修カリキュラム

<p><実践研修></p>	<p>◆対象：サービス管理責任者、相談支援専門員などの高次脳機能障害者支援の経験者等</p> <p>◆研修のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携（チームアプローチ）の重要性を理解する。 ・高次脳機能障害者の支援の短期的な方向性（個別支援計画等）を立てることができるようになる。
---------------------	--

	時間	科目	内容
I 講義	400		
障害特性に応じた支援・地域の支援体制	40	障害特性に応じた支援	地域における高次脳機能障害の支援体制
認知症との共通点と相違点	40		認知症との共通点と相違点
発達障害との共通点と相違点	40		発達障害との共通点と相違点
小児期における支援	40	ライフステージに応じた支援	小児期発症の高次脳機能障害の特徴／復学支援
長期経過とフォローアップ	40		各ライフステージにおける高次脳機能障害の特徴／支援
多職種連携・地域連携；チームアプローチの重要性	40	チームアプローチの重要性と支援の原則	地域連携とチームアプローチ
多職種連携・地域連携；家族（きょうだい）支援・当事者家族会の活動	40	家族（きょうだい）支援・当事者家族会の活動	高次脳機能障害者家族支援
コミュニケーション支援	40	コミュニケーション支援（地域生活・職場での支援）	失語症・高次脳機能障害によるコミュニケーション障害の理解
支援の実践的な枠組みと記録	40	支援の実践的な枠組みと記録	支援の実践的な枠組み・プロセス／アセスメント票と支援の手順書の理解／記録方法
自動車運転再開支援	40	自動車運転再開支援評価・手続き	高次脳機能障害者の自動車運転支援に関連する法制度、運転評価、課題や留意事項などの理解
II 演習	360		
障害特性の理解と対応方法	180	1. 障害特性の理解と対応方法 2. 障害特性とアセスメント	高次脳機能障害者の心理と対応法の理解
			障害特性に基づくアセスメント
			グループワーク（障害特性の把握と対応方法のディスカッション）
			対応方法演習（ロールプレイ）
環境調整による支援と記録に基づく支援の評価	180	1. 環境調整の考え方と方法 2. 記録の収集と分析	グループワーク及び発表（対応方法の振り返りと支援計画検討）
			強みや好みを活かす視点
			環境調整の考え方
			環境調整の方法
			行動の記録の方法
			記録の整理と分析
			再アセスメントと手順書の修正
チームアプローチを学ぶ（個別支援計画作成演習）			
グループ検討／まとめ			

高次脳機能障害支援者養成研修 基礎編シラバス

	講義名	到達目標	内容	時間数
講義 00	高次脳機能障害支援者基礎研修とは	基礎編研修の趣旨について理解する。	基礎編研修の対象者および構成	—
講義 01	高次脳機能障害とは	高次脳機能障害の定義を知る。	高次脳機能障害の定義 Q&A 各論の紹介	40分
講義 02	高次脳機能障害の診断・評価	高次脳機能障害が生じる背景と診断・評価の基本を理解する。	診断の流れ 症状の成り立ち 症状の診かた 神経心理学的評価	40分
講義 03	病院で行うリハビリテーション	急性期から回復期に至る病院でのリハビリテーションの内容を理解する。さらに、医療機関と地域の福祉機関との連携方法を理解する。	医学的リハビリテーション ① 急性期および回復期の理解 ② 医学的管理 ③ 廃用症候群の予防 ④ 高次脳機能障害への対応 医療福祉連携 ① 障害者総合支援法の利用 ② 介護保険法の利用 ③ 就労支援機関	40分
講義 04	失語症とコミュニケーション支援	失語症についての基本的なイメージを持ち、具体的な対応の要点を理解する。	失語症とは何か。 適切な対応方法	40分
講義 05	制度利用	高次脳機能障害支援に関連する法制度を理解する。	高次脳機能障害支援に関連する法制度 障害者総合支援法に基づくサービス 障害者手帳制度 手続き 活用方法と事例	40分
講義 06	相談支援	高次脳機能障害支援における情報収集・アセスメントの要点を理解する。	診断名と症状や受傷発症状況 既往歴と医療機関 家族と関係者 生活状況と生活史 制度利用	40分
講義 07	生活訓練	高次脳機能障害者の生活訓練について理解する。	・生活訓練の概要 ・高次脳機能障害者の生活上の困難さ ・生活訓練におけるアセスメントと目標立案 ・訓練プログラムの内容 ・生活訓練における支援のポイント	40分

<p>講義 08</p>	<p>復職・就労移行支援</p>	<p>1. 基本的な就労支援施策を理解する。 2. 高次脳機能障害者への就労支援のプロセスを理解する。</p>	<p>1. 就労支援施策 ① 発症・受傷から復職・新規就労までの流れ ② 障害者総合支援法に基づく就労系サービス ③ 障害者雇用施策に基づくサービス 2. 就労移行支援における取組 ① 就労支援のプロセス ② 職業相談 ③ 職業評価 ④ 職業準備訓練 ⑤ 復職・新規就労支援 3. 高次脳機能障害者の就労支援のポイント ① 高次脳機能障害者の課題と就労支援のポイント ② 自己理解の重要性と困難さ ③ 社会適応モデル</p>	<p>40分</p>
<p>講義 09</p>	<p>生活と支援の実際</p>	<p>生活支援の場における支援のプロセスと支援方法、課題について理解する。</p>	<p>作業時における高次脳機能障害者の問題 受け入れにあたってのアセスメント 環境調整 支援の実際 作業を教える技術 支援を通して目指すこと</p>	<p>40分</p>

演習 01	障害特性の理解； 診断・評価体験	高次脳機能障害の診断に用いられる評価を体験し理解する。	下記検査を体験し、検査上の異常について理解する。 順唱・3単語再生・セブンシリーズ・線分二等分テスト・2輪の花の絵模写・立方体透過図の模写	90分
演習 02	障害特性に応じた支援	具体的な事例を通して、高次脳機能障害支援における情報収集・アセスメントの要点を理解する。	脳卒中・脳外傷（通勤中の自動車事故）の事例を通して、「診断名と症状や受傷発症状況」「既往歴と医療機関」「家族と関係者」「生活状況と生活史」「制度利用」等の情報収集・アセスメントの要点を理解する。	90分
演習 03	生活訓練の実際	具体的な事例を通して、生活訓練における支援の実際を理解する。	生活課題のある就労を目指す事例を通して、生活訓練における「目標設定」「計画立案」「訓練項目及び内容」「調整項目及び内容」「他機関との連携」等の要点を理解する。	90分
演習 04	復職・就労移行支援	医療機関と就労支援機関の立場による違いを知るとともに、基本的な就労支援のプロセスについて理解する。	脳卒中の復職ケースの事例を通して、「医療機関で必要となるアプローチ・難しいアプローチ」「医療機関と就労支援機関の連携をする上での課題、効果的な情報提供」「就労支援機関で必要となるアプローチ」について理解する。	90分

高次脳機能障害支援者養成研修 実践編シラバス

	講義名	到達目標	内容	時間数
講義 01A	障害特性に応じた支援・地域の支援体制	地域における高次脳機能障害の支援体制について理解する。	地域の支援体制 支援拠点機関等が行う事業内容 社会資源（保健・医療・福祉・当事者団体等）の情報	40分
講義 01B 前半	認知症との共通点と相違点	認知症について、認知機能の特性を知り、高次脳機能障害と比較し理解する。	認知症の種類・認知機能の低下・周辺症状について原因から理解し、対策を考えられるようにしていく。	40分
講義 01B 後半	発達障害との共通点と相違点	発達障害について、その症状特性を知り、高次脳機能障害と比較し理解する。	発達障害の分類とその症状特性について原因から理解し、対策を考えられるようにしていく。	40分
講義 02A	小児期における支援	小児期発症の高次脳機能障害の特徴、症状と対応方法を理解する。子どもの社会復帰先である学校との連携や家族支援について理解する。	小児期における支援 ・小児高次脳機能障害の特徴 ・症状と対応方法 ・復学支援（学校との連携） ・家族支援	40分
講義 02B	長期経過とフォローアップ	小児期・青年期・成年期・壮年期・高齢期それぞれのライフステージにおける高次脳機能障害の特徴と対応を理解する。受傷から医学的リハ・生活訓練・職業訓練を経て就労に至るまでの流れと、壮年期の機能低下や認知症へ移行した場合の支援について理解する。	ライフサイクルをとおしてみた高次脳機能障害 ・青年期の特徴 ・就学から就労につなげる ・成年期の復職支援 ・回復の基盤が緩やかな場合の支援の連続 ・壮年期・高齢期の機能低下 認知症への移行 ・受傷・発症から10年経過した事例の特徴と支援	40分
講義 03A	多職種連携・地域連携；チームアプローチの重要性	高次脳機能障害児者と家族が地域で生活を安心して送るために必要な地域連携とチームアプローチの方法、支援を行うにあたっての気を付けたい点について理解する。	高次脳機能障害児者支援における多職種連携・地域連携 ・多職種による支援チームの意義 ・支援チームを作るときに ・「家族との連携」と「家族支援」 ・継続した地域連携 ・地域における支援の仕組み	40分

講義 03B	多職種連携・地域連携；家族（きょうだい）支援・当事者家族会の活動	高次脳機能障害者家族支援の必要性と支援の視点を理解する。	高次脳機能障害者家族の困難 感情反応と障害受容の理論 家族支援の視点 家族会の活動 きょうだいの問題 ケアラーとしての家族への支援	40分
講義 03C	コミュニケーション支援	失語症向け意思疎通支援事業について理解する。 失語症以外の高次脳機能障害によるコミュニケーション障害の特徴と対応方法について理解する。	失語症の場合の失語症者向け意思疎通支援事業 失語症以外の高次脳機能障害によるコミュニケーション障害の特徴と対応 高次脳機能障害によるコミュニケーション障害の症例提示	40分
講義 03D	支援の実践的な枠組みと記録	・地域生活支援を展開するための諸計画の作成ポイントやつながりを理解する。 ・記録を踏まえたフィードバックの意義を理解する。	・サービス等利用計画の作成ポイントと個別支援計画とのつながり ・個別支援計画の意義と手順書とのつながり ・記録とフィードバックの意義 ・地域の相談支援体制の活用	40分
講義 03E	自動車運転再開支援	高次脳機能障害者の自動車運転支援に関連する法律制度、運転評価、課題や留意事項などを理解する。	運転免許制度 自動車の運転評価で確認する事項 自動車運転で生じる課題、留意事項など 自動車と運転補助装置の選択 自動車に関する税と助成制度など 各学会の自動車運転に関する適応や指導指針	40分
演習 01	障害特性の理解と対応方法	高次脳機能障害者の心理と対応法を理解する。 障害特性に基づくアセスメントを理解する。	グループワーク：事例によるロールプレイ グループワーク：事例検討	180分
演習 02	環境調整による支援と記録に基づく支援の評価	支援内容の組み立てに際し、本人を取り巻く環境の調整により課題解決を図る方法を学ぶ。 支援記録を踏まえた本人へのフィードバックのあり方について理解する。	モデル事例による ・再アセスメントの視点 ・再プラン に関する演習を行う。 モデル事例による ・支援記録を踏まえた本人へのフィードバックの必要性の確認 ・留意点の理解 に関する演習を行う。	180分